

# 陽気だより

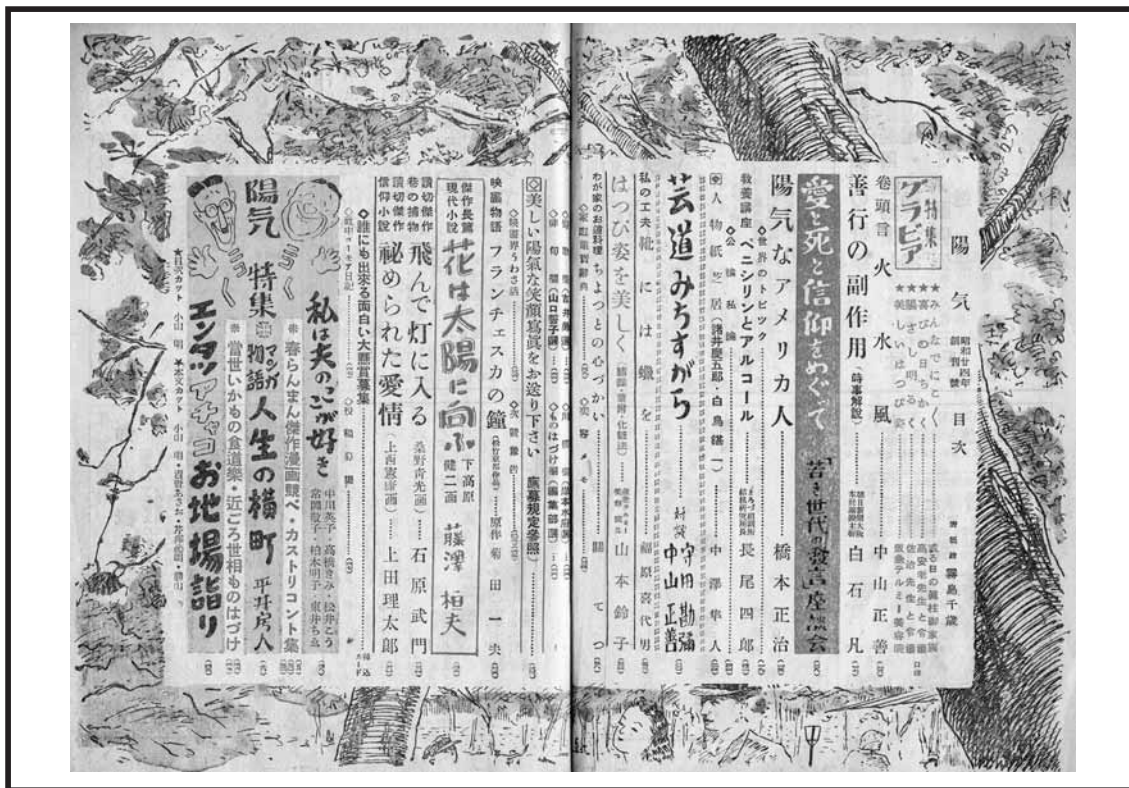
養徳社 検索

No.4 2007.7.15

## 創刊号から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60周年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事からふり返っていきます。

## 再録・創刊号目次



創刊号は、目次を見ているだけで楽しくなる。

巻頭言は中山正善二代真柱が飾っておられるが、漫画、小説、対談、随筆など、なんでもありで、創刊にかける編集部意气込みがじかに伝わってくる。

驚くことのひとつは、教外の執筆者に錚々たる方々が名前を連ねていることである。

当時の朝日新聞大阪本社論説主幹をはじめ、作家の藤澤恒夫、歌舞伎の十四世守田勘弥、漫才作家の秋田実。短歌俳句、川柳の選者には、吉井勇、山口誓子に岸本水府といった今でもその道で名を残す人の名前が並んでいる。

おもしろい企画記事として「愛と死をめぐって」「若き世代の発言座談会」と題して九人の青年・女子青年によって「男女共学の生態」「女の欠点」「女は太陽」など、まさに談論風発、興味深い話が展開されている。

この創刊号は、天理図書館に収蔵されているものと本社に記録用として数冊が残っているだけである。皆さんに見ただけなのが残念。

## わが家のお道料理

昔は、お祭りの後の御料理などでも、食べきれないで残す方も多かったようですが、この頃はそれがなくなりました。日本人全体が心に餓えているのでしよう。それを、心もちで満たしてあげるように工夫いたしたいと思えます。例えばどんぶり一ぱいの御飯にいたしましても、白いままですと淋しいので、私どもでは、よく肉どんぶりにいたします。お下がりの青物に、牛肉が百匁(三七五グラム)で七人前の見当にしておりますが、とても喜んでいただけます。その時はお漬物と簡単なお菜で、十分、満足していただけます。

子供たちには、カレーの利用を忘れないようにしたいと思います。材料は有合せで結構です。何でも利用できるのが、カレーの特長です。御飯においも入れると不足されても、カレーでは却って喜んでもらえます。私どもでは、豚の配給があつたときには、その膏を煮てカレー用の油をとっておきます。牛肉を入れなくても、その膏味で美味しくいただけます。

御神饌を利用する教会料理は、それを活用する心がけだけで御馳走になると思えます。そこに、温かい親心がこもるのではありますまいか。(関てつ・創刊号より)

# ちゃんちゃん火

主として夏の夜である。丑三つ頃になると、おちばの東南四キロぐらいの所にある俗称「城山」といわれる山岳の中腹から、一つの大きな火の玉が飛んでくる。そしてそれが、一旦豊田山の「石峰」と呼ばれているところに飛来して、さらに七つに分かれてあちこちへ飛んでゆき、暁方前に帰って来て再び城山の古巢に戻っていく。もし人がその火の玉を見て、「ほーい、ほーい」と呼ぼうものなら、どこにしようかと、忽ち飛んできて、頭の上を、「ちゃん、ちゃん、ちゃん、ちゃん」と凄い音をたてて、いつまでも飛び回って立ち去らない。人々は家の中などに逃げ隠れて声も出さないで慄えていたものである。

戦国時代のことか、城山の中腹に城を築いていた(その石垣だけが現存している)藤地藤太郎という城主が「車返

## 川柳

岸本水府選

手毬唄何処か淋しい引揚者  
お父さんの小言ラジオをとめてから  
戦闘帽僕一人です汽車に乗る  
焼けてから法隆寺見に行きたがり

し」(東本詰所前あたり)のところで筒井順慶の軍勢に討ち果たされ、城を焼かれたので、籠城中の武士たちが、「残念残念」と魂が寄りかたまつて「さんねん、さんねん」というている。それが「ちゃん、ちゃん」と聞こえているので、「ちゃん、ちゃん火」といわれるとの伝説である。

「一ぺん試してやれと思って、ほーい、ほーい」と呼んでみた。そしたら矢のように飛んできて頭の上をちゃんちゃん飛び回った。……あとでこの事を教祖に申し上げると、「あれはあるものや。あんなもの呼ぶものやない」と仰せられた」と、林おかのさんが幼い私に聞かせてくれたことがある。本席さんも一度お呼びになされたそうで、あとで「あれは呼んではいけない」とおっしゃったとも聞いたことがある。

(「陽気」創刊号より)

呼びに来た兄も見ている紙芝居  
下駄持つて上る風呂場も世相なり  
嘘もあり本当もあっていい親子  
方言を乗せて出て行く汽車の旅

## ◎インフォメーション◎

復刊! 8月20日予定

平成三年一月に出版した松田武信著(旭園分教会前会長)『歩いただけが道』を装丁も新たに復刊します。静岡、東京、大阪、そして四国松山へと、おしどり夫婦が歩んだ汗と涙の単独布教記録です。ご期待ください。(B6判・定価未定)



講演会CD 発売中!

『陽気』に連載中の講演会を肉声で聞いてください。植田与志夫氏は、先ごろの「教会長おやさ」と研修会」でも講話をし、好評でした。熱誠あふれる話に、燃えること間違いなし。CDジャケットの後ろ姿は、植田氏本人です。

(定価1,260円 送料150円)  
講演会CDは、他にも「笑いと健康・村上和雄」「生き

方が病気を決める・今中孝信」  
「家族のきずなを考える・宮崎伸一郎」などがあります。



好評です

『生き方メッセージ』(松宮守著 新書判・232頁 定価840円)は、人の動きや思いを、さまざまな視点から書き綴ったエッセイ集。気づきを与えてくれる一書です。



高野友治氏との思い出が一杯

『思い出のスケッチ』は、画家の青山文治氏が高野友治氏と歩いた伝道ゆかりの地の思い出を、美しい絵とともに語ります。教祖や先人の姿が鮮やかに浮かび上がってきます。

(四六判上製 定価1,470円)  
※ご購入は、おちばの各書店でお求めくださるか、直接当社へご注文ください。  
(0743・62・4503)

## 養徳社 よもやま話

★編集部のY氏は男児三人の父親。このたび三人が所属する少年野球チームの監督に就任。チームの中から、阪神タイガースで活躍する選手が出るのが大きな夢。その夢に一步踏み出して、不安の中にも意気軒昂。

★八月号『陽気』の表紙は、西宮のヨットハーバー。海風の匂いを感じる。ああ、なんで奈良には海がないのと、思わず呟く。潮騒に目を閉じて昼寝がしたい。

## 広告を載せませんか

『陽気』は日本全国はもとより、世界各国にも発信しています。

企業PRから教区・大教会の催し、お知らせにもお役立てください。

一回の掲載料金は二万円よりございます。

くわしくは、左記までお問い合わせください。

(0743・62・4503 本社 業務部)

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

養徳社